



ゆかりびと

第 33 回

ささや 笹沼 登美子 さん

一日一日を積み重ねて、
127年
人が集う、駅前ぬくもり



片岡駅前で明治32年から地域に親しまれてきた笹屋呉服店が、今年で創業127年を迎えます。3代目として店を切り盛りする笹沼登美子さんは、「一日一日を積み重ねてきただけなんです」と穏やかに話します。駅前商店街の一角を担う笹屋呉服店は、時代の流れとともに紳士服や婦人服、節句の飾りや冠婚葬祭の引き出物など、暮らしに寄り添うさまざまな品を扱うようになり、現在の洋品店「ささや」へと姿を変えていきました。嫁いだことをきっかけに店に立つようになった笹沼さん。当時は座る暇もないほど忙しい毎日でしたが、先代から教わった「儲けではなく、お客様に寄り添った接客を」という言葉を大切に、一人ひとりと向き合い続けてきました。店は買い物をするだけの場所ではなく、お茶を飲み立ち寄りしたり、常連客がお昼を持ち寄りたりと、人が自然と集まる地域の居場所として親しまれてきました。中には50年以上通い続けるお客様もいて、「顔を見せに来てくれるだけでもうれしい」と笹沼さんは目を細めます。そんな何気ない交流の積み重ねが、笹沼さんを支え続ける何よりの励みになってきました。

「あと3年で店を閉めよう」。夫に先立たれた18年前、そう決心したこともありましたが、それでも今日まで店を続けてこられたのは、地域の皆さんや、お店に関わってくださった方々のおかげだと笹沼さんは話します。その感謝の気持ちで、のれんを守り続ける原動力になっています。「駅を降りた時に、シャツターが閉まっていたら寂しいでしょう」と優しくほほえむ笹沼さん。その言葉からも、地域への深い愛情が伝わってきます。

現在は店の一角を貸出スペースとし、新たな交流の場づくりに取り組んでいます。地域の人々がふらりと立ち寄り、人と人とのつながり、笑顔が生まれる場所。「ささや」はこれからも、片岡駅前であらぬぬくもりを届け続けます。

Editor's Note 編集後記

▷7月に参加した全国広報広聴研究大会では、能登半島地震や西日本豪雨災害を経験した自治体広報担当者の講演を拝聴。心に残ったのは、「日頃の取材で築く住民との信頼関係が、災害時の広報につながる」という言葉。今日からまたよろしく願います(DYC)

▷ゆかりびとの取材でお邪魔した「ささや」さん。温かな雰囲気でお迎え入れてくれて、取材を忘れてしまうほど居心地の良い時間でした。地域のために行動できる人って本当にかっこいいです。ご協力いただきありがとうございました！（よっしー）